

直播向けで良食味の水稲新品種「えみのあき」

— いもち病に強く直播栽培で実力を発揮します —

《はじめに》

家庭内でのお米の消費が減少する中で、外食産業やお弁当など業務用に使われるお米の需要は安定しています。業務用のお米の価格を抑えるために、育苗や田植えの必要がなく、生産コストを下げる事ができる直播栽培に取り組む生産者も増えてきています。直播栽培でコストを抑えながら安定した収穫量を得るためには、倒れにくい、病気に強いといった特徴を持つ水稲品種が欠かせません。もちろん、栽培しやすいだけでは駄目で、お米がおいしいことも大切です。「えみのあき」はこれらの特徴を兼ね備えた新品種です。

《新品種「えみのあき」の特徴》

「えみのあき」は、いもち病にとっても強い品種「みねはるか」と、草丈が低くて倒れにくい直播栽培に適した品種「萌えみのり」を掛け合わせて開発した品種です。

「えみのあき」は、東北地方の主要品種である「ひとめぼれ」と同じ頃に穂が出る品種です（表1）。草丈は「ひとめぼれ」よりもかなり短く、稲刈りの時期になっても「ひとめぼれ」よりも倒れにくいという長所を持っています（表1、図1）。また、いもち病に強いのも大きな長所です。いもち病が発病しやすい条件の田んぼで栽培しても、いもち病にかかって枯れる穂は「ひとめぼれ」よりも明らかに少ないことがわかりました（図2）。お米の収量は、田植えをした場合には「ひとめぼれ」と同じくらいですが、直播栽培をすると、「ひとめぼれ」が倒れて減収することが多いので、「えみのあき」の方が多収になります（表1）。お米の食味は「ひとめぼれ」と同じくらい美味しいと評価されています。玄米の外観品質は「ひとめぼれ」と同じくらい良質です（表1）。

水田作研究領域

梶 亮太

KAJI, Ryota



《「えみのあき」の今後について》

「えみのあき」は、東北地方の「ひとめぼれ」を栽培できる地域や北陸地方に適した品種です。現在、新潟県の農業生産法人が直播栽培での生産販売に向けて試験栽培を行っています。「えみのあき」の名前は、栽培しやすく美味しい品種として、生産者、消費者がともに笑顔になることを願って名付けられました。名前の通りに生産者、消費者の方々に喜んでもらえるよう、普及に取り組んでいきたいと考えています。



えみのあき

ひとめぼれ

図1 / 「えみのあき」の収穫前の様子

表1 / 「えみのあき」の主な特徴（栽培地：秋田県大仙市）

栽培方法	品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	倒伏 程度	精玄米重 (kg/a)	玄米 千粒重(g)	玄米 品質
表面条播直播 (2007~2012年)	えみのあき	8.13	9.26	69	0.2	62.8	22.5	上中
	ひとめぼれ	8.13	9.25	87	3.1	57.7	22.2	上中
	萌えみのり	8.11	9.24	70	0.9	67.9	23.3	上下
普通期移植 (2008~2012年)	えみのあき	8.6	9.21	71	0.0	64.2	23.5	上中
	ひとめぼれ	8.5	9.20	88	2.8	65.6	23.2	上中
	萌えみのり	8.4	9.21	73	0.1	68.5	24.1	上下

注) 直播平均播種日：5月11日、平均移植日：5月18日。倒伏程度は0（無倒伏）～5（完全倒伏）の6段階評価。玄米品質は上上～下の9段階評価。

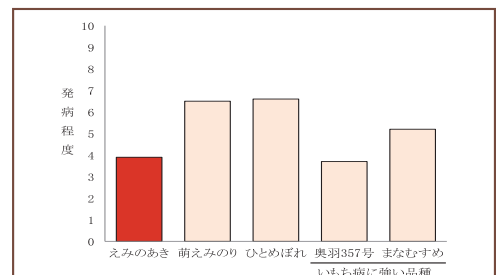


図2 / 「えみのあき」の穂いもち病の発病程度 (2007~2012年平均)

注. 発病程度が小さいほどいもち病にかかっていない。